

第14回江戸川流域シンポジウム 7/28(土)

「鮎がのぼれる川づくり」 主催：江戸川の自然環境を考える会
利根川上流から「日本一のアユを取り戻す会」の福田睦夫さん、東京湾と都市河川の鮎の専門家・小泉正行さんと共に、鮎のこと、海と上流の河川を行き来する鮎がのぼれる川づくりについて語り合った。群馬県からの参加も多く、会場は満席の賑わいとなった。江戸川河川事務所副所長・渡邊正美さん、松戸市清流ルネッサンス担当室長の岡本善明さんを交えての充実のシンポジウムとなった。



東京都島しょ農林水産センターの小泉正行さん



講演中の日本一のアユを取り戻す会事務局長・福田睦夫さん

河川整備など講演する渡邊副所長



松戸の坂川に清流と生きもの戻りアユも確認と話す岡本室長



佐野郷美さんの進行でパネルディスカッションが始まる



流下仔魚の耳石調査で何日前に生まれたか わかると小泉正行さん



会場からも質問が続く



江戸川のアユを群馬で釣りたいと福田さん



冷水病について会場から解説くまの魚振興室長の小泉正人さん



今後も稚アユ調査は続けたい



話す時間は不足気味



会場からの発言

松戸漁協の中臺弘志さん

渡邊正美さん

第14回江戸川流域シンポジウム 鮎・川づくりで行なわれる

7/28(土) 女性センターゆう・まつど

江戸川の自然環境を考える会主催のシンポジウムは夏恒例のイベントとして定着した感がある。今回は江戸川を行き来する鮎をテーマに生態や川づくりについてディスカッションが行なわれて、上流下流、大勢の参加者で賑わった。

江戸川河川事務所副所長・渡邊正美さんはまず利根川の基本計画や川づくりの進め方を語り、あとは今春の稚アユ遡上調査に先立ってウグイによる流水調査を行なって、どれだけの流量を与えると上流へのぼるのかなどの実験談を交えながら、江戸川水閘門の稚アユ調査の様子の子細な報告があった。パワーポイントのセットの都合か、一般席からの講演だったが、このスタイルはこのシンポ初。

次の東京都島しょ農林水産センターの小泉さんをはじめ、演者のお顔が見えない発表スタイルはやはりマイナスであった。パワーポイントは情報を見せるということで、効果的な手法であるが、研究発表ではないのだから、ある意味聴衆に語りかける、聞いてもらうというパフォーマンスは常に必要になる。フィールドを重視し、時に川に潜って記録をとる小泉さんの話は、魚やアユなど少し専門的に興味のある方には大変参考になる講演だったと思えた。第3は日本一のアユを取り戻す会事務局長・福田睦夫さんの「利根川上流のアユ(現状と課題)」。対面して話をすすめてもらうことにした。パワーポイントも問題点を整理して、大きく箇条書きにし、今抱えるアユと河川の問題を話されて分かりやすかったし、稚アユののぼりやすい人工物に替えて、江戸川のアユをもっとたくさん群馬の利根川で釣りたいと話を結ばれた。

休憩後のパネルディスカッション

ここから松戸市清流ルネッサンス担当室長の岡本善明さんが加わり、進行は佐野郷美さん(利根川・江戸川流域ネットワーク)。まず岡本さんは松戸市と河川清流課の取り組み、坂川に清流と生きものが戻り、子どもたちも川遊びができるようになったと報告。鮎の話題ばかりの中で少し遠

慮された感がある。

冷水病についてコーディネーターからの質問に、群馬県庁ぐんまの魚振興室長の小泉正人さんが会場から「水温5度ほどの冷水中のマス類から発生した病気が鮎まで広がったが、“冷水中で発生したウイルス性の病気”なので、そのまま『冷水病』と呼ばれたのです」と解説。それに先立って会場の松戸市漁業協同組合長の中臺弘志さんが流水保全水路誕生のいきさつ、自然を無視し、なんでも人工化すると弱い魚、病気の魚などが増える弊害が出ると熱弁。実は昨年、Tが群馬県にPRし、その成果として今春、松戸漁協に稚アユ注文720kgが生じ、新しい友好関係もスタートした経緯がある。

パネラーが答え難い会場からの質問には、パネラーでないTが答えるという他ではありえないハチャメチャぶり。全体の話としてはまとまらないが、江戸川河川事務所も引き続き、稚アユ遡上調査をすと言い、小泉さんは市川橋あたりの仔魚の耳石を調べればふ化後何日経過しているかがわかり、産卵場所の特定につながる可能性を示唆。利根川上流へ稚アユがのぼりやすい川づくりが今後いっそう進むことを予感させた。佐野さんの進行はさすが、時間どんぴしゃ。群馬県庁の関係者をはじめ、前橋市、太田市、桐生市、高崎市など上流からの参加者も多く、約60名近い参加者でホールは満杯の盛況のうち終了した。

懇談会 7/10

江戸川
ふれあい松戸川の管理をどうすべきか

通水から9年、柳も立派に育ち、水辺のヨシ、オギ原も繁るに任せて当初の狙いだった自然な水辺の復元は成ったかに見える。地域のひとたちの中には、これでは荒れすぎで汚いと見えるらしく、手を加えて使い勝手の良い水辺に変えたいなど管理方法を巡って行政と住民が話し合うテーブルが用意され、女性センターゆうまつど会議室で第1回のふれあい松戸川懇談会が開催された。住民の皆さんは町会長など、松戸漁協の中臺さん、江戸川の会から田中、松戸市河川清流課が出席、江戸川河川事務所が進行役。

まず事務所からふれあい松戸川のできるまでの説明後、全員短い意見などを出し合う。流れにフタをしてひとが集える広場を・・・とか、かなり無理のある要求も出る。中臺さんは自然が戻るように樋管案からオープン川づくりへ変え自然も戻って、野鳥の音がする良い環境になったことを力強く説く。田中も47万都市の中心でこれだけオオヨシキリの密度が高いのは日本一ではないかと補足。

とりあえず、問題としては木道をもう一本つけ、年一度オギヨシを刈る、橋の周囲は草刈、この時にゴミ掃除もしたら・・・時間切れなので次回、河川事務所から計画案が示されるという。

7月こんなことがありました ○印 田中が係っている行事

○	7/10(火)	ふれあい松戸川懇談会 江戸川河川事務所
○	7/10(火)	河川事務所+ト・ネ・ド顔合わせ 利根川・江戸川流域ネット
○	7/13(金)	ト・ネ・ド運営委員会 利根川・江戸川流域ネット
○	7/14(土)	江戸川野遊び道場「干潟の生きもの観察」 (中止) 葛飾区郷土と天文の博物館
○	7/18(水)	利根運河運営委員会 利根運河の生態系を守る会
○	7/21(土)	江戸川野遊び道場「真っ暗闇体験」 葛飾区郷土と天文の博物館
○	7/28(土)	第14回江戸川流域シンポジウム 江戸川の自然環境を考える会
○	7/31(火)	水辺の自然体験 江戸川・坂川のトンボ 松戸市青少年会館